

公立大学法人金沢美術工芸大学第2期中期目標期間(平成28年度～令和3年度)業務実績(見込)報告の概要

1 第2期中期目標期間68項目の実施結果(令和2年3月末日現在)

大 項 目 (項目番号)		I	II	III	IV	合 計
		実施していない	十分には実施していない	十分に実施している	上回って実施している	
教育研究等の質の向上	教 育 (1～23)	0	0	19	4	23
	研 究(24～30)	0	0	4	3	7
	その他社会連携等(31～38)	0	0	6	2	8
	小 計	0	0	29	9	38
業務運営の改善及び効率化(39～46)		0	0	8	0	8
財務内容の改善(47～56)		0	0	9	1	10
自己点検・評価及び情報の提供(57～60)		0	0	4	0	4
その他業務運営(61～68)		0	0	7	1	8
合 計		0	0	57	11	68

## 2 第2期中期目標業務実績(見込)

大項目	中期目標に対して順調に実施している項目	今後の課題が残った項目
大学の教育研究等の質の向上	<p>教育</p>	<p>1 教養科目において汎用的能力を培う教育を実践し、基礎科目においては多様な表現力を養う教育を実践する ○ コミュニケーション能力をはじめとする汎用的能力、自己の創造を歴史及び社会と関連付けて理解する能力を培うため、教育内容を改善し、「金沢の文化行政」などの科目を新設した。今後は、教養科目の更なる拡充と新キャンパス移転を念頭に置いた基礎科目の在り方の検討を進める。</p> <p>2 各科・専攻の特性に応じた実践的な能力を身につけるため、産学・地域連携を活用した特色ある教育を推進する ○ 企業や地方公共団体等との産学連携事業や地域連携事業について、内容とその教育的な効果を確認した上で、多くの学生の参画を促し、実践的な能力を身に付ける教育を実施した。今後も、新たな連携先や新規事業を開拓する等、金沢の文化に根ざした産学・地域連携を活用した特色ある教育を推進する。</p> <p>3 教員配置計画及び大学院改革に伴う組織改革に基づき、教員の適正配置、定数管理を行い、大学院指導教員資格審査を計画的に実施する ○ 工芸科の学生定数の増員、デザイン科の教育組織の再編、大学院における映像領域の新設など、新キャンパス移転に向けた検討を始め、WGを立ち上げて協議を進めた。今後は、新キャンパス移転に向けた教育組織の見直しと教員の適正配置に取り組み、必要に応じて文部科学省への申請や届出を行う。</p> <p>4 授業科目以外の課外、学外の活動に関する支援体制を検証し、充実を図る ○ 学生の課外活動を指導するとともに、本学独自の「学生展等開催交付金」、「公募展出品等事業補助金」、「ワールドワイド奨学金」を支給して、作品発表や海外での活動を支援した。 ○ 学生が金沢21世紀美術館のコレクション展及び特別展を無料で何度でも鑑賞できる「金沢21世紀美術館キャンパスメンバーズ」に加入し、現代アートに関して学ぶ機会を充実させた。2年度には全国6箇所の施設を利用できる「国立美術館キャンパスメンバーズ」にも加入を予定しており、更なる学外活動の支援に努める。</p> <p>5 大学独自の奨学金制度や学生顕彰制度を充実させ、効果的な学生支援を推進する ○ 2年度からの国の修学支援新制度の対象外となる大学院生の「授業料等減免」を本学独自の支援制度として整備するとともに、「KANABI クリエイティブ賞」による学生顕彰を実施した。今後も引き続き、効果的な支援に努めるとともに「コロナ禍、における新たな修学支援対策を講じて行く。</p>
	<p>研究</p>	<p>1 金沢をはじめとする地域文化について、本学独自の視点による高度な水準の研究に取り組み、その成果を公開する ○ 「平成の百工比照」資料約7,000点を美術工芸研究所ギャラリーで常設展示したほか、4K動画による工芸技術を記録し、データベース化を進めて、工芸研究の拠点形成に取り組んだ。今後は国内はもとより海外に向けての発信強化に努め、国際的な研究拠点の形成を推進する。</p> <p>2 本学の特色を活かして、芸術・文化等に関する国際的水準の研究に取り組み、その成果を公開する ○ 韓国・清州市で開催された清州国際工芸ビエンナーレに参加し、初めて海外で「平成の百工比照」事業を紹介する展示を行い、研究交流を行った。 ○ 金沢市で開催されたユネスコ創造都市ネットワーク分野別会議2019において、「平成の百工比照」資料のうち約5,000点を金沢市文化ホールに展示し、本学の研究成果をアピールした。</p> <p>3 本学が取り組む研究について、その成果を効果的、計画的に整備・蓄積し、また公開・展開する ○ 研究成果物の保存と発信を目的とする「機関リポジトリ」をHP内に設けたほか、「教員研究発表展」や「柳宗理デザイン展」を開催して、本学が取り組む研究の成果を積極的に公開した。今後も引き続き、新キャンパスにおける美術館整備を念頭に置いて、本学の研究成果の蓄積と公開に努める。</p>
	<p>その他社会連携等</p>	<p>1 金沢市をはじめとする自治体との連携を通して、教育研究成果を社会に還元する ○ 金沢マラソン「完走者メダルデザイン」など多くの地域連携事業を受託したほか、珠洲市の奥能登国際芸術祭に教員・学生チーム「スズプロ」が参加してその作品が高く評価された。今後は第2回奥能登国際芸術祭への参加をはじめとする連携を通して、教育研究の成果を社会に還元する。</p> <p>2 国際交流を充実させるため、交流協定を結ぶ大学との連携事業を推進し、学生や教員の海外派遣事業の支援体制を整備する ○ 東アジア地域の優れた美術系大学とのネットワークを構築し、本学を拠点とする大学間交流を推進するため、台湾で最も歴史のある国立台湾芸術大学との交流協定を締結した。元年度からの5か年計画に基づき、今後も引き続き、海外協定校の拡充を図る予定であり、更なる連携強化に努める。</p> <p>3 外国人留学生の受入れを拡大するため、受入体制、教育体制、環境等の検証を行う ○ 研究生制度を活用して大学院における外国人留学生の拡大を図るとともに、新たに日本滞在中の外国人留学生を対象とした「KANABI工芸セミナー」を開講し本学の魅力を発信した。今後も、外国人留学生の受入れの体制や環境を検証し、改善に努める。</p>
	<p>業務運営の改善及び効率化</p>	<p>1 学長によるガバナンス体制を充実させるため、学長裁量経費の確保や学長を補佐する体制の確立等の措置を実施する ○ 大学院改革を視野に入れ大学院専任制度を見直し、学長裁量で人件費の配分を変更することで、各専門領域の客員教授を増員し、大学院を中心とする専門教育の高度化に努めた。 ○ 学長指名により、デザイン科の組織改編を協議するデザイン科将来構想WG、大学院改革を協議する大学院改革実施計画WGを立ち上げるなど、柔軟な大学運営の実現に取り組んだ。今後は、新キャンパスへの移転を見据えて、各科・専攻の編成、学生定数、教員配置等について検証を行い、改善を進める。</p>
	<p>財務内容の改善</p>	<p>1 大学の特性を活かした独自の自己収入増加策を検討し、企業等からの資金の導入に取り組む ○ 企業や地方公共団体等からの社会連携の依頼に基づき、当初予算計上額を大幅に上回る受託研究収入を得て、新しいデザインの提言など本学ならではの特色ある研究を行った。今後も引き続き、大学の特性を活かした自己収入の増加、企業等からの資金の導入に取り組む。</p>
	<p>自己点検・評価及び情報の提供</p>	<p>1 印刷媒体やホームページ等の広報媒体と方法を見直し、新規広報媒体の発行・発信を含めた改善を行う ○ 大学案内等の広報媒体を一新したほか、社会連携活動のあゆみを紹介する展示会や客員教授で映画監督の米林宏昌氏のトークライブを開催し、本学への関心度を高める機会とした。今後も新キャンパス移転までの間、効果的なプロモーション事業を展開し、移転に向けた機運醸成を図るとともに、広報媒体の改善に努める。</p>
<p>その他業務運営</p>	<p>1 新キャンパス構想に基づき、必要な機能を具体的に検討し、金沢市による新キャンパスの設計の策定に寄与する ○ 金沢市や設計業者と協議し、「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」という新キャンパス基本コンセプトの実現に向け、本学の意向を基本設計に反映させた。 ○ 実施設計においては、各科・専攻等の希望を取り入れ、各諸室の機能面や導線の確保を重視し、共通工房やアートcommonsを特色とする、より詳細な空間レイアウトの協議を進めた。2年度には建設工事に着手する予定であり、引き続き、新キャンパスの整備に積極的に寄与する。</p>	